

イベント（講演）名	平成 18 年度 環境保全・共生科学技術研究会 『視察研修会』
主 催	(財) 郡山地域テクノポリス推進機構 日本大学工学部工学研究所
開催又は実施年月日	平成 18 年 12 月 4 日（月）
開催又は実施場所	堆肥化施設「三風」（須賀川市）、株ひまわり（須賀川市）
参加人員	21 名

前回の研究会において、「福島県における循環型社会形成の現状と問題点」をテーマに、省エネルギーやCO₂削減、資源循環など、福島県における施策の展開と地域における取り組みなどを紹介して、循環型社会形成の現状と問題点について論議を深めました。今回は、循環型社会の実現に向けて積極的に取り組んでいる先進企業を実際に訪問し、認識を深め、今後の研究会の活動に活かしていきたいと考え、『視察研修会』を開催しました。

○堆肥化施設 「三風」

あらゆる有機性物質（有害物質を含まないもの）を約 25 日間で高品質の完熟堆肥に再生し、環境への負荷をできる限り低減した状態で自然界に還元することができる施設である。

当日は、株平和物産 代表取締役 吉田一郎 氏が施設概要等を説明しました。



レーンに投入された排出物が、100メートルの距離を移動しながら 25 日間かけて発酵させ完熟堆肥となります。

原料である有機性排出物を発酵槽内に投入し、発酵槽下部より空気を送り込みます。堆肥化施設「三風」は発酵の立ち上がり環境が良いため翌日には発酵槽内の温度が 70～80℃まで上昇、表面からは湯気が湧き出るほど発酵分解が活発化します。原料の水分は投入時は約 70～80%程度ですが、2 日目には 55～65%程度に低下します。

約 2 週間をかけて温度は 60～70℃まで下降し、含水率が 40～50%まで減少すると発酵は緩慢になります。この原料投入から約 15 日間を一次発酵といいます。

その後、水分を補給すると再び発酵を再開し（二次発酵）、温度は 70℃程度まで回復、水分も 50%程度となります。二次発酵は微生物が発酵成分を使い切る概ね 20 日間程度で終了しますが、万一、難発酵性物質が多いなどの理由で多少発酵が遅れたときのことを踏まえて予備日として 5 日分を加え、全行程を 25 日間と設定しています。





完熟肥料は、水はけが良く水持ちに優れ、病害等に強い土壌作りに最適です。また、微量ミネラル成分が多種含まれており、ミネラルバランスの優れた健康な土地作りに最適です。

視察参加者は、実際に堆肥を手に取り、熱心に質問等をしていました。

○株式会社 ひまわり

地域との連携による廃食油の収集と地域通貨の流通、バイオディーゼル燃料（BDF）精製による社有車の燃料化、50kw 太陽光発電システム 雨水再利用など、積極的に取り組んでいる。

当日は、㈱ひまわり 代表取締役社長 佐藤 博 氏が自社 CO₂ の 71%削減を達成した経緯などを説明しました。



京都議定書発効による法律の施行により、産業界の省エネルギーを促す法律である「改正省エネ法」や、大企業を対象にした CO₂ の排出量の国への報告が義務づけられる「温暖化対策推進法」などが制定され、当社が「環境経営」に取り組むきっかけとなった背景などを説明しました。

当社の「環境経営」の実践計画として、下記の点が挙げられる。

①環境税対策（化石燃料に課す税）

バイオマス燃料の BDF の生産と消費。
太陽光発電によって化石燃料の消費を半減することで税の負担から回避する。

②リサイクル事業

CO₂ の固定化となるバイオマス（有機性資源）、具体的には「汚泥」のリサイクル事業を実現する。

③排出権取引市場への参画

CO₂ の排出削減で排出権を金融資産化する。

